

# 中学3年1組 音楽科学習指導案

指導者 小 村 聡

日本及び諸外国の伝統音楽の声の音色の特徴について、伝え合うような学び合いをしたことは、それぞれの声の音色の特徴をさらに深く感じ取ることに有効であったか。

## 1 題材名 日本や諸外国の伝統音楽が生み出す声の音色の特徴を感じ取ろう

### 2 授業の構想

(1) 先日開催した校内音楽会では、各学級とも練習の成果を十分に発揮し、立派な合唱演奏を披露した。本校の生徒たちは、毎年この校内音楽会に対する関心と意欲がとて高く、上学年の歌声にあこがれと理想を抱いて取り組んでいる。また、日頃の昼休みや部活動時にコーラス部の歌声を耳にする機会が多く、合唱における発声のイメージを多くの生徒たちがもっている。しかし、合唱以外のジャンルの音楽の発声に関しては、ポップス系を除いてほとんど触れる機会がない。音楽の授業では、1年時にミュージカル、2年時にオペラと歌舞伎の鑑賞を行ったが、総合芸術とのからみでの学習で扱ったため、発声の違いについては、詳しく触れていない。

本学級は、学習に対して前向きに取り組もうとする生徒が多く、歌唱活動では、曲想を感じ取り積極的に表現しようとする姿が見られた。鑑賞活動では、音を聴いてから瞬時に発想する力やその発想の豊かさにすばらしいものを感じる。しかし、「音楽を形づくっている要素」や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして音楽のよさや美しさを味わうことができる力はまだまだ弱い。また、ピアノなどの音楽の習い事をしている生徒、コーラス部、オーケストラ部に所属している生徒を合わせると11人おり、学級の3分の1の生徒が日頃より音楽経験を積んでおり、個人により音楽体験や経験に差があるということが言える。このような生徒の実態を考えた上で、できるだけ全員の興味・関心をひきつけるように本題材の授業を構想した。

(2) 本題材は、日頃触れる機会の少ない日本や諸外国の伝統音楽について興味・関心をもち、それらが生み出す声の音色の特徴について、グループや学級全体で伝え合うことで、その特徴についての個のとらえをより深めていき、さらに音楽とその背景となる文化や歴史について調べ学習をさせ、それらを発表させることで、単に多くの音楽があることを知識として得るだけでなく、人々の暮らしとともに音楽文化があることを理解させることをねらいとしている。

学級全体での学び合いを活性化させ、思考力・判断力・表現力がより高められるように共通の課題設定として、「音楽を形づくっている要素」の一つの「音色」に焦点をあてる。教材は、学び合いが、生徒の個人的な音楽経験に過度に左右されることがないように、普段触れることの少ない日本及び諸外国の伝統音楽の中から「カンツォーネ(イタリア)」「ホーミー(モンゴル)」「日本民謡(日本)」「ヨーデル(スイス)」「アーヴァーズ(イラン)」「ゲンジエ(インドネシア)」を扱う。「カンツォーネ」の発声法は、生徒が普段行っている合唱活動で用いる発声に近いので、声の出し方や特徴がとらえやすく、それを言葉で表現しやすいと考える。モンゴルの「ホーミー」は、緊張した喉から発せられる笛のような独特な高音の声が特徴で、生徒が強い関心をもって聴くと考える。「日本民謡」は、数多い日本民謡の中でもメロディの美しさが際だっているのが特徴である「南部牛追い歌」を扱う。スイスの「ヨーデル」は、男声の裏声と低音域の地声を交互に織り交ぜるようにして歌うのが特徴で、声の音色の特徴をとらえやすいと考える。また、2次で扱うイランの「アーヴァーズ」は、喉をふるわせ、声を転がすようなタハリール唱法と伴奏楽器の「ネイ」と呼ばれる葦を加工したノンリードの気鳴楽器が特徴で、インドネシアの「ゲンジエ」は、人間の声をガムランの楽器に見立てて、おもしろおかしくリズム遊びをする一種の合唱で、どちらとも音楽とその民族の文化とのつながりをとらえやすい教材と考える。

(3) このように本題材の教材のもつ魅力と本学級の生徒の実態を踏まえた上で、以下のように展開する。

第1次では、音楽のジャンルについての問いかけを導入として、その中の伝統音楽の声の音色に焦点をあてて、それぞれの声の音色の特徴を感じ取らせる。2次では、前時に鑑賞した楽曲を映像とともに再度鑑賞させ、さらにイランの「アーヴァーズ」とインドネシアの「ゲンジェ」の映像を鑑賞させて、歌い方や演奏者の衣装、伴奏楽器などの演奏の様子からその国の文化との結びつきを感じ取らせる。そして、音楽とその背景となる文化や歴史について調べ学習をさせ、それらを発表させることで、単に多くの音楽があることを知識として得るだけでなく、人々の暮らしとともに音楽文化があることを理解させたい。

本時は、本題材の1次1時間目である。前述のとおり、導入として音楽のジャンルについての問いかけをし、そのジャンルの広さを感じさせ、その中の伝統音楽に着目させる。そして、さらに声の音色に焦点をあてて鑑賞させ、その声の音色の特徴を感じ取らせる。まず、普段の合唱活動で聴き慣れている発声法のイタリアの「カンツォーネ（オーソレミーオ）」を聴かせ、個人でワークシートに感じた特徴を書かせる。その特徴を何人かに発表させ、出た意見を板書し学級全体で共有する。その時に言葉だけのやり取りに終わらないように、音楽を聴いて確かめていくことが大切である。今後の学び合いを成立させるために次の4点をはたらきかけていく。①感じたことを具体的な言葉で表現できるよう〔声を表す言葉集〕や〔音楽の言葉集〕を提示する。②どのようにして声を発しているのか、口や喉の開き方などの声の出し方についても想像させながら聴かせる。③自分の意見と違う意見をワークシートに書き取らせる。④発表の際には「同じように感じた人いますか?」「違った感じ方をした人いますか?」と学級全体に問いかけ共有していく。

次にモンゴルの「ホーミー（丸いひづめの栗毛の馬）」を聴かせ、しぼり出すような地声と笛のような高音の2つの声をとらえさせる。そして、この2つの声は、1人から発せられていることを説明して、映像を見せて確認をする。その後、グループ活動に入る。グループは1グループ4～5人で、音楽経験者が偏らないようにあらかじめ編成しておく。グループに分かれて再度「ホーミー」と「日本民謡（南部牛追い歌）」、スイスの「ヨーデル（ヨハン大公のヨーデル）」を聴かせて、それぞれの声の音色の特徴を伝え合わせて、意見をまとめさせる。この時、お互いの意見が共有できるようにボードに書かせる。また、声の出し方について実際に声を真似てみながらとらえるようながす。

そして、学級全体に発表させる。グループでまとめた声の音色の特徴について、ボードを全体に示しながらグループ代表者に発表させる。この時、前述の学び合いを成立させるための③・④のはたらきかけをしていく。最後に本時のふりかえりとして、伝え合いを通して自分の感じ取りが深まったこと、分からなかったこと、変わらなかったことをワークシートに書かせる。

### 3 展開計画（全3時間 本時1／3）

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は、学級全体の学び合いの場面）
1	伝統音楽の声の音色の特徴を感じ取ろう	①	・音楽のジャンル・伝統音楽について、ワークシート学習をする。 ◇アジア、ヨーロッパの伝統音楽を声の音色に焦点を当てて鑑賞し、それぞれの声の音色の特徴を言葉で表し、伝え合う。 「カンツォーネ(イタリア)」「ホーミー(モンゴル)」「日本民謡(日本)」「ヨーデル(スイス)」
2	伝統音楽とその国の文化や歴史との結びつきを探ろう	2	・前時に鑑賞した世界の伝統音楽を映像とともに鑑賞し、演奏の様子（歌い方・衣装・伴奏楽器など）からその国の文化を感じ取る。 ・さらに特徴的な2曲を鑑賞し、伝統音楽の幅広さを感じ取る。 「アーヴァーズ(イラン)」「ゲンジェ(インドネシア)」 ・グループで音楽の背景となる文化や歴史を調べる。
		3	◇調べたことをまとめ、発表する。

#### 4 評価計画

次	時	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
1	1	伝統音楽と声の音色の違いについて関心をもち、意欲的に聴いたり、声を出したりしている。			声の音色の特徴について自分が感じたことを言葉で表現し、学び合うことで、さらにその特徴を深く感じ取っている。
2	2	映像資料に関心をもち、意欲的に視聴している。 声の音色の特徴とその背景となる文化や歴史との関連に関心をもち、意欲的に調べている。			音楽と文化や歴史が結びついていることを感じ取っている。
	3	声の音色の特徴とその背景となる文化や歴史との関連に関心をもち、意欲的に発表を聴いている。			音楽と文化や歴史が結びついていることを理解している。

#### 5 本時の学習

##### (1) ねらい

日本や諸外国の伝統音楽が生み出す声の音色について、個がとらえた特徴をグループや学級全体で伝え合うことで、その特徴についてのとらえを深めることができる。

##### (2) 展開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価 (◎は学び合いのためのはたらきかけ)
1. 音楽のジャンル及び伝統音楽について知る。	・パワーポイントで示しながら説明し、ワークシートに書き込ませる。
2. 本時のめあてを確認する。	・本時の学習に見通しがもてるよう、めあてを提示する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">日本や諸外国の伝統音楽が生み出す声の特徴についての感じ取りを深めよう。</div>	
3. 「カンツォーネ」を鑑賞し、その声の音色の特徴についてワークシートに書き込み発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴くことに集中できるよう、映像は見せない。</li> <li>・感じたことを具体的な言葉で表現できるよう、〔声を表す言葉集〕や〔音楽の言葉集〕などを提示する。</li> <li>・口や喉の開き方などの声の出し方についても想像させながら聴かせる。</li> <li>・出た意見を板書する。</li> <li>・言葉だけのやり取りに終わらないように、音楽を聴いて確かめていく。</li> </ul> ◎自分の意見と違う意見をワークシートに書き取らせ

<p>4. 「ホーミー」の聴くポイントを確認する。</p> <p>5. グループに分かれて「ホーミー」「日本民謡」「ヨーデル」を鑑賞し、それぞれの声の音色の特徴について伝え合って、意見をまとめる。</p> <p>6. グループでまとめた声の音色の特徴を全体に発表する。</p> <p>7. 本時をふりかえる。</p>	<p>る。</p> <p>◎発表の際には「同じように感じた人いますか?」「違った感じ方をした人いますか?」と学級全体に問いかけ共有していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめは映像を見せずに聴き、2つの声が聴こえることを確認する。</li> <li>・2つの声が1人から発せられていることを映像で確認する。</li> <li>・聴くことに集中できるよう、映像は見せない。</li> <li>・感じたことを具体的な言葉で表現するよう指示する。</li> <li>・「カンツォーネ」の声の音色との共通点や相違点からそれぞれの声の音色の特徴をとらえさせる。</li> <li>・口や喉の開き方などの声の出し方についても想像させながら聴かせる。</li> <li>・実際に声を出して真似てみるようながす。</li> </ul> <p>◎お互いの意見が共有できるようにボードに書かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">評価の観点（音楽への関心・意欲・態度）</p> <p style="text-align: center;">伝統音楽と声の音色の違いについて関心を持ち意欲的に聴いたり、声を出したりしている。</p> </div> <p>◎ボードを全体に示しながら発表させる。</p> <p>◎「同じように感じた班いますか?」「違ったように感じた班いますか?」と学級全体に問いかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉だけのやり取りに終わらないように、音楽を聴いて確かめていく。</li> </ul> <p>◎自分の意見と違う意見をワークシートに書き取らせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">評価の観点（鑑賞の能力）</p> <p style="text-align: center;">声の音色の特徴について自分が感じたことを言葉で表現し、学び合うことで、さらにその特徴を深く感じ取っている。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 発表・ワークシート】</p> </div> <p>◎伝え合いを通して自分の感じ取りが深まったこと、分からなかったこと、変わらなかったことをワークシートに書くよう指示する。</p>
--	---